

どうやって国際機関で働き始め、職位の階段を登って行くか

国際電気通信連合無線局 システムアナリスト/プログラマー

ふくむる 福室
かずつく 和紹

1. はじめに

皆様はじめまして。ITU無線局に勤務する福室と申します。本日は「どうやって国際機関で働き始め、職位の階段を登って行くか」といったテーマで少しお話させていただこうと思います。

まず初めに、このテーマに至った経緯から。私は日本で大学を卒業して以来ずっと“ITエンジニア”として働いています。日本ではSE(システムエンジニア)をしていました。ITUで勤務を始めてからも基本的にやっていることは同じです。コードを書き、サーバの設定などもする。なんでも屋です。余談ですが、この“SE”に対応する英語表現をずっと見つけられずにいました。ジュネーブの公用語であるフランス語では、自己紹介の折“インフォーマティシアン”というと、何かIT関連の仕事をしているのだとすっと理解されます。一方、英語では例えば私のITUでの正式な職務名称は「System Analyst/Programmer」ですが、これでは実際のところ何をやっているのかなかなか伝わりません。先日、英語の堪能な地元医師に職業を尋ねられ(英語での初診の問診でした)インフォーマティシアンと答えたところ、「ああITエンジニアですね」と言い換えていました。“ITエンジニア”。悪くない響きです。今後英語ではこのように自己紹介しようと思います。余談が長くなりましたが、そういったことで私は電気通信の専門家ではありませんし、ITUでは本社機構勤務、日本で言う内勤です。国際会議にも出席したことはありません。ですので、ITUの本業については皆さんの方がよほどご存知と思います。そこで今日は、ITUのような国際機関に勤めるには一般的にどのような道があるのか、また、昇進の仕組みはどのようなものなのかをお話させていただこうと思います。あくまでも私がこれまで経験したこと、聞きかした範囲でお話します。私の知らないケースや、機関によっての差があることは予めご承知おきください。

2. 国際機関に就職するには

国際機関で働くには、公募されるポストに応募するのがほぼ唯一の道です。ですが、例えばITエンジニアの本採用のようなポストには数百人の応募があると聞きますので、



選考は狭き門です。加えて、公募されるポストには実は既に“意中の人”がいることも少なくありません。“意中の人”、つまり未だ本採用にはなっていないが既に当該ポストの職務を事実上行っていて、組織側は彼、彼女のパフォーマンスに満足しており本採用したいと希望されている人。この“意中の人”にならなければ採用を勝ち取るのはなかなか難しいように思います。ではどうやって“意中の人”となるのか。2通りの方法があります。1つ目はインターン。WHOなどではインターンをさせてもらうのがそもそも狭き門だと聞きますが、2つ目は、JPOの名称で知られていますが、自国の負担で国際機関へ見習い職員(JPO: Junior Professional Officer)を送り出すプログラムを行っている国々があります。日本もその一つです。また自国民だけでなく、中には他国、主に途上国の国民を支援するケースもあります。イタリアのプログラムを使ってやって来ている南米出身のJPOに会ったことがあります。1と2いずれ場合も選考を通るのは本採用に比べれば容易になります。どちらの場合も時限付きかつその間自分(国際機関)の財布は傷まないのですから。そうして皆さんは実際に働いて見せるチャンスを得、自らの有用性を知ってもらうのです。ただ、実際にはこれらの道もなかなか容易ではありません。第一には年齢制限があること。35歳ぐらいがリミットです。またインターンへの申込みは学生であることが条件となります。また無給、もしくはとても薄給です。その間自分の持ち出しで生活する覚悟が必



要です。

3. 昇進。国連機関の職位制度

次に、いかに職位の階段を登って行くかについてお話させていただきます。まずは国連の職位制について簡単にご説明します。国連及びITUなど傘下の専門機関にはG (General Staff。現地採用) の職位1から7まで、P (Professional Staff。国際採用) の同じく1から5まで、最後にD (Director) の1と2の全部で14段階の職位があります。ご想像のように基本的には上に行けば行くほど権限が増し、同時に責任も増し、俸給も若干のオーバーラップはありますが増えます。一方先程国際機関で働き始めるために公募“ポスト”に応募すると申し上げましたが、実はこの“ポスト”という概念がとても特徴的で、10年ほどの日本企業での勤務を経てここに来た私には馴染みのないもので、理解するのにすこし時間がかかりました。当たり前ですが、組織が機能するためには、ITUが加盟国から期待されている役割を全うするためには、その中で働く人々がそれぞれの“決められた仕事”を不足なく行うことが必要です。この“決められた仕事”が“ポスト”です。内容は一つひとつのポストのJob Descriptionに記述されています。例えば、「Web serverの維持管理を行う」であったり、「公用文書を英語からフランス語へ翻訳する」であったり。一つのポストに奉職する際、契約書にサインすることによって、我々はそこに書かれている機能を果たすことを約束し、ITUは“それ以外のことを要求しない”ことを我々に対して約束します。ポストが作られる際、それがどれだけの報酬に値するのかが吟味され職位が決定されます。再び余談ですが、国連組織全体で使われているソフトウェアが存在します。Job Descriptionを読み込ませると職位がアウトプットとして出てくる。何か当たり前のことをくどくど書いているようですが、ここまでのことを別の言葉で言い換えると、一つのポストに働いている間は永遠に昇給はない^{*1}ということです。同

じことをしているのだから給料は同じ。Job Descriptionに書いていないことを自らやってもそれが昇給や昇級によって報われることはありません。昇給するためには昇級する、そのためにはポストを移らなければなりません。ポストを移るとはつまり、希望するポスト(通常は上の職位のポスト)が空席となった際に出る公募に自らの意思で応募し、選考を勝ち抜くことを意味します。

私はITUに奉職してもう少しすると20年となります。他の国際機関での勤務の経験はありません。それ以前には新卒採用で入社した日本企業一社のみでの約10年の勤務経験があるだけです。その限定された経験、知見の範囲で私見を述べさせていただくと、以上簡単にご説明させていただいた国連機関の人事制度は合理的で、相当程度の公正性、透明性が保たれていると感じます。現状に満足であれば現在のポストにとどまる^{*2}。突然移動、転勤の辞令が出ることはありません。逆に、より大きな責任を伴うポストで自分を試してみたいければ、自らそれに向けた努力をする。社外での自己研鑽や、また現在所属する部署で“上が詰まっている”、上のポストがしばらく空きそうにない場合、同一職位で部署を移ることも。無論その場合も公募空きポストへの応募ですが。

4. おわりに

以上「どうやって国際機関で働き始め、職位の階段を登って行くか」といったテーマでお話させていただきました。面白く読んでいただけましたら幸いです。また、若く転職を検討されている皆さんに多少の参考となれば、これに勝る喜びはありません。実際私も当時転職活動をしていました。海外勤務を希望していましたが、当時勤務していた会社、部署では難しそうでした。ですが、国連、国際機関などは全く考えておらず、そういう選択肢があると気づいたのは全くの偶然からでした。この寄稿が皆さんにとってのそんな偶然となるやも。

*1 実際には数年の間は年次昇給的なものが存在しますが、その後は本当にずっと同じ俸給です。

*2 近年変化がありました。現在公募されるポストには、ほぼ例外なく「2年契約。2年延長の可能性あり」と書かれるようになりました。同一ポストにとどまれるのは最長4年。以前は「2年契約」とのみ。多くの場合4年を超えた後も延長され、2回の契約更新後は無期の契約となっていました。この新しい4年ルールがどこまで厳密に運用されているのか分かりませんが、少なくとも上層部は一人の職員がずっと同じことを続けるのを希望しないというメッセージのようです。